

1 単元 物語の魅力を伝える読み手になろう

～『スワンレイクのほとりで』 小手鞠るい（光村図書4年）～

2 指導の立場

<子どもの実態から>

子どもは、教材『ごんぎつね』において、読んだ後の感想や印象の要因を追究する経験をしている。そこでは、情景描写に対する自分のイメージや、読み手による結末の捉え方の違いについて話し合ってきた。このような子どもが、教材『スワンレイクのほとりで』においても、物語の魅力を追究する課題を解決するために何に注目して文章を読めばよいか、立てた問いが読み深めるために有効であったかを話し合うことで、作者の表現の意図やよさを捉え、言葉への自覚を高め、よりよく言葉を使おうとするだろう。

そこで、単元を構想するにあたっては、次のような教材を設定する。

<教材について>

本教材は、比喻や音・光・色の表現が豊かであり、読み手によって様々な捉え方ができる教材である。ここでは、教材文に対する多様な捉え方を聞いて、言葉に対する捉えや考えを広げることが大切である。そこで、「この物語の魅力とは何か」について探求する活動を設定する。子どもは、なぜ捉え方の違いが生まれるのかを叙述を基に追究しながら、自分の考える物語の魅力の根拠となる部分やその理由を明確にし、相手が納得するように伝えようとするだろう。

そこで、指導にあたっては、次の点に留意する。

<指導上の留意点>

- 単元の初めに、自分と他者との教材文に対する捉え方の違いをもとに「問い」を設定し、学習計画を立てる活動を設定する。そうすることで、本単元のゴールまでの道筋をイメージできるようにする。
- 第二次では、「問い」を解決するために子ども一人一人が学習方法を選択・実践し、共有する場を設定する。そうすることで、多様な観点から物語を捉え、他者との解釈の違いを捉えたり、問い直したりすることができるようにする。
- 第三次では、「物語の魅力」について討論する活動を設定する。そうすることで、他者の捉えた魅力と比較しながら、自分の考えについて振り返ることができるようにする。

3 目標

- (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕(1)オ
- (2) 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)カ
- (3) 何に注目して読むのかを明確にした上で文章を読み、学習の見通しをもって自分なりの解釈をまとめようとする態度を養う。
「学びに向かう力、人間性等」

4 指導計画（総時数 8 時間）

次	学習活動・内容	単元の指導上の留意点
一 ②	○ 範読から話の内容の大体をつかみ、「問い」を吟味し、学習計画を立てる ・登場人物 ・疑問を基にした問いづくり	○ 「この物語の魅力とは何か」について討論会を行うという課題を提示することで、必要な学習内容を検討することができるようにする。
二 ④ 本時 3 / 4	○ 登場人物の性格について、自分の考えをまとめて話し合う。 ・行動描写 ○ 中心人物の変容について、自分の考えをまとめて話し合う。 ・行動描写や情景描写 ・中心人物の変容 ● 登場する自然や動物の役割について、自分の考えをまとめて話し合う。 ・比喻やオノマトペ ○ 「スワンレイクのほとりで」という題名に込められた意味について、自分の考えをまとめて話し合う。 ・題名に込められた意味	○ 学習活動を選択させることで、各々の進度に応じた学びを計画し、主体的に学ぶことができるようにする。 ○ 課題を解決するためにどのように文章を読むのかを「さぐる」活動を設定することで、明確な視点をもって教材文を読むことができるようにする。 ○ 他者との交流で得た考え方や感じ方と比較させることで、自分の考えを「みがき」、登場人物の役割についての自分の考えをまとめることができる。 ○ 自分の捉えた考えを基に交流させることで、自分が学び、考えたことが他者の納得度に繋がっているか「ためし」、評価できるようにする
三 ②	○ 二次で読み取ったことを基に、「物語の魅力」について討論メモを書く。 ・文章構成 ○ 「物語の魅力」について討論し、学習を振り返る。 ・表現の工夫 ・「問い」の視点	○ 自分の考えを文章化させることで、自分の変容を捉えたり、根拠と理由を明確にしたりすることができるようにする。 ○ 「物語が読み手に伝えたいこと」について討論する活動を通して、多くの捉え方や感じ方があることに気付くことができるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。（(1)オ）	①文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。（C(1)カ） ②登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（C(1)エ）	①進んで、登場人物の性格や気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて想像し、考えたことを文章にまとめようとしている。

6 本時案 ー第二次・3時分ー

- (1) 主眼 登場する人物や自然、動物の役割について話し合うことを通して、作者の表現の工夫や場面のつながり、物語の構成について、自分の考えを形成することができる。
- (2) 準備 ワークシート、タブレット端末、電子黒板
- (3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 前時の学習を振り返り、本時の学習内容をつかむ ・ 本時への見通し	ア 歌はアメリカに行ったことで、今までにはなかった考え方ができるようになっていたね イ グレンに出会って一緒に遊んだことも関係していたね	・ 前時までの学習を想起させることで、本時の問いの意義を見直すことができるようにする。	5
2 「問い」について話し合う ・ 場面同士のつながり ・ 中心人物の心情の変化 ・ 行動描写 ・ オノマトペ	ア 野菜を見ながら英語と日本語の呼び名を教え合うことにも意味があったのかな イ 自分の言葉が伝わることに嬉しいって思えたのではないかな ウ 伝わることの面白さがリスで表現されているのかもしれないね エ 湖が見えた時と、湖から帰る時で、歌の心情にも変化があったことが分かるね オ 歌の心情を白鳥で表現していたのではないかな	・ 自分で着目する視点を決め、その捉えたことを共有する場を設けることで、表現の工夫による多様な捉え方に触れることができるようにする。 ・ 「どこからそう思ったのか」「どうしてそう思うのか」を問い返すことで、一人一人根拠と理由を明確にもって発言できるようにする。	35
3 本時の学習を振り返る ・ 文章構成 ・ 考えに対する根拠と理由	ア いろんな考えが出てきて、自分では思いつかなかったものも多くあったから今日の「問い」は必要だったと思うな イ 自然や動物で表現することで、登場人物の心情を表していることも、この物語の魅力の一つだね	・ 前時までの学びと本時の学びを比較させることで、新たな考えやより深化した考えを明確にし、自覚することができるようにする。	45

(4) 評価規準と方法

登場する人物や自然、動物の役割について話し合うことを通して、作者の表現の工夫や場面とのつながり、物語の構成について、自分の考えを形成することができたか、発言やワークシートからみとる。

<メモ>